

他動詞の難易文における難易を条件づける要因について

The Factors of Tough Transitive Verb Sentences in Japanese

孫 慧 鑫

SUN, Huixin

岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要
第52号 2021年12月 抜刷
Journal of Humanities and Social Sciences
Okayama University Vol.52 2021

他動詞の難易文における難易を条件づける要因について

孫 慧 鑫*

1. はじめに

本稿における難易文とは、「食べやすい」「食べにくい」のように動詞と形容詞「やすい」「にくい」などからなる合成語を述語とする文のことを指す。従来、現代日本語の難易文においては、＜行為の容易さ・困難さ＞（「難易」と呼ばれる）を表すものと＜事態の生起する可能性あるいは傾向性＞（「傾向」と呼ばれる）を表すものがあると指摘されている。対応する用例を二つずつあげる¹。

- (1) 彼は農地を五ヘクタールほど借地して、何もないところから始めた。パラグアイでは真面目な日本人への高い評価があるので、彼も土地を借りやすかったのだろう。（世界はワシらを待っている）
- (2) 鹿児島黒豚は、（中略）ふつうの豚肉にくらべ、ほどよい歯ごたえがありながら噛み切りやすいのである。（これがホントの特上品だ！）
- (3) 鯖が腐りやすいのは肉が軟らかくて内臓量が多いため、そしてたんぱく質の含有量に比べて脂肪の割合が多いためだと言われます。（やさい・くだもの・さかな）
- (4) 鉄 おもに血液をつくるもとになる。不足すると貧血になりやすい。（新しい技術・家庭
家庭分野）

以上の用例の波下線部分のように、行為にしても、事態にしても、その実現が容易なのか困難なのかということは何らかの要因に条件づけられている。しかも、要因の違いによって、難易文の構造と意味は大きく異なってくる。例えば、動作主体を取り巻く外的状況が要因となる用例（1）では、動作の主体が主語の位置に現れ、文は/ある条件が存在しているために、「土地を借りる」という動作が容易に実現した/という意味を表している。それに対して、はたらきかけの受け手の内的な性質が要因となる用例（2）では、主語の位置を占めるのは動作の対象「鹿児島黒豚」である。具体的な出来事の実現の難易を述べる例（1）と違い、この文は対象の恒常的な属性を叙述する属性叙述文である。このように、難易の要因を調べるということは、要因を表す言語的手段をただ羅列的に記述するのではなく、難易文の構造・意味を明らかにする上でも重要な意味をもつと思われ

* 岡山大学大学院社会文化科学研究科院生

¹ 注記がない限り、以下の例文における下線は全て筆者による。難易を条件づける要因と思われる部分は波線で表示する。

る。そうした観点をもつ難易文の研究はまだ少ないようである（後述）。

本稿では、難易文における難易であることの要因について考察する。具体的には、その要因には何があるのか、それぞれはどのような言語的表現として文に現れるのか、文の全体の構造・意味とどういう関係にあるのか、などの課題を解決する。

2. 先行研究

難易文を条件づける要因について言及した先行研究は、さほど多くない。以下、難易であることの条件について言及した研究を取り上げる。まず、渡邊（2007）や大江（2014）では、要因によって難易文を分類することが可能であることを指摘しているが、詳しい分析はなされていない。また、鈴木（2015）では、ヤスイ・ニクイが表す「難易」の中に「動作主に当該の行為を行う能力がある状態で、物理的に出来事成立の難易を左右する要因」にもとづく「物理的難易」と「動作主がその行為に対して心理的抵抗感」にもとづく「心理的難易」という二種類の下位区分があることを主張している（鈴木2015：85）。用例を一例ずつ引用する。

- (5) 肉が一口サイズに切られていて食べやすい。 (鈴木2015： 79)
(6) こんな昼間からビールを飲みにくい (= 飲むのが憚られる)。 (鈴木2015： 81)

鈴木（2015）は「難易」だけを取り上げているが、近藤（2005）では、「傾向」も含めて難易文全体を条件づける原因・理由として、A〈限定された状況・対象〉、B〈行為者の心的状況〉、C〈人・物・事柄の性質〉があると主張している。対応する用例を2例ずつ引用して以下に示す（下線は原文のまま）。

- (7) その歌は 〈蛍の光〉のメロディーなので歌いやすかった。(五木寛之『風に吹かれて』) (近藤2005： 208)
(8) 時計の文字盤は見えないようにブラック・アウトして消してしまった。時間が気になると、計算がやりにくくなるからである。(村上春樹『世界の終わりとハードボイルド』) (近藤2005： 207)
(9) 遠い北海道に住む吉川が一番話しやすい友人であったためかもしれない(三浦綾子『塩狩峠』) (近藤2005： 208)
(10) 「何ですか」「ちょっと聞きにくいことなただけど」五月さんは心持ち顔を赤らめ、それから或る厳しい目つきをした。(曾野綾子『太郎物語』) (近藤2005： 207)
(11) 「感じやすい子供のころに見たその光景は決して忘れることができませんでした」(三浦綾子『塩狩峠』) (近藤2005： 208)

- (12) 「私たちは絶対とは言えないまでも、極めて沈みにくい船を造ってみせます」(阿川広之『山本五十六』)(近藤2005: 207)

近藤(2005)の指摘は大いに参考になるが、この論文では用例を十数例しかあげておらず、それぞれの要因はどのような言語的表現をとって文に現れるのか、またその要因が文の構造・意味とどう関わっているのか、などの問題については触れていない。難易文を条件づける要因を文の構造と意味との関係の中で、網羅的に記述する必要があるだろう。

3. 動詞の自他と難易文の意味と要因

実際の考察に入る前に、動詞の自他と難易文の意味(難易・傾向)と要因について簡単に触れておく。

まず、「やすい」「にくい」と結合する動詞が他動詞である場合、難易文は、ほとんどの場合、「難易」の意味を表す。「傾向」の意味を表す場合もあるが、用例は極めて少ない。これは、他動詞は意志動詞が多いことと関連している。難易文の述部に現れる動作が、意図的なもの、あるいは目標としてのものであれば、動作の遂行・実現の難易は当然問題になる。

ところが、「なくす、忘れる」などの無意志の他動詞が難易文の述部に出てくると、難易文の表す意味は異なってくる。これらの動作は人の意志によってコントロールできない。しかも、一般には人間にとって望ましくないものである。動作の達成には何らかの努力も、エネルギーの付け加えもないので、「難易」の意味としてとることができず、「調査カードはあまり小さいと、なくしやすい」のように事態の成立の確率が高いという「傾向」の意味として捉える。ただし、実際の調査によれば、この種の難易文の用例は極めて少ない。

さらに、意志的な他動詞であるにも関わらず、「傾向」の意味になる用例もわずかながら存在する。この場合、「Bグループの被験者は安くて経済的なソファを選択しやすい」が示すように、文は動作が行う過程に関心がなく(言い換えると、対象に働きかけていく過程における内外の状況からの妨げや、動作主体の努力などに関心がなく)、複数の対象からどれを選択するかということに重点を置いており、その確率を事実に基づいて客観的に述べている。ここでは、被験者の選択は意図的なものか、自然反射的なものかということは重要ではない。

次に、難易文の述部に出てくる動詞が自動詞である場合、「難易」の意味を表す用例は少なく、「傾向」の意味を表す用例が圧倒的に多いことが、実際の用例の調査によってわかる。他動詞の場合と同様に、難易文の述部に現れる動作が意図的なものであれば、文は「難易」の意味を表す。ところが、自動詞の多くは、人間の意志には関わりなく進行する、自然発生的な現象(錆びる、腐るなど)をさししめす。難易文が表す「難易」はあくまでも動作主体の立場に立って述べているので、行為者の存在しないそれらの自動詞が難易文の述部に現れると、文は/ある変化の進行が速い・遅い、

あるいは事態が成立する確率が高い・低い/こと（いわゆる「傾向」の意味）を表す。

ただし、ここで注意したいのは、以上は、意志的な他動詞や無意志的な他動詞といった典型的な場合における自・他動詞と難易・傾向との関係の大枠であって、「Bグループの被験者は安くて経済的なソファを選択しやすい」「ブラジル人は気分で動きやすい」のように、意志動詞であっても、「傾向」の意味を表す場合があり、「自分に不利なことも正直に話したほうが相手の信頼を得やすい」「この教授は極めてオープンで親しみやすい」のように、無意志動詞でも、「難易」の意味として捉えられる場合がある。

最後に、難易文の意味と要因との関連について見てみよう。「難易」「傾向」を条件づける要因といえば、ほとんどの場合、内的なものとの外的なものに分けることができる²。動作主体が存在する場合、その主体の内的な状態・特性や外的な状況が要因として働く。難易文においては、想定される動作の主体は、特別な場合を除いて、ほとんど人間である。それに対して、動作ではなく、無意志的な変化を表す場合は、変化の主体の内的あるいは外的な条件が要因として働く。「子供は大人より迷いやすい」「鉄は錆びやすい」のように、変化の主体は人でも、物でもよい。また、「難易」の意味を表す難易文においては、述部に現れる動詞が他動詞である場合、外的な要因として<動作の対象>と<外的状況>という二つの要素があげられるのに対して、自動詞の場合では、後者しかない。なお、「このパンは食べやすい」のような他動詞の例は、動作の対象が主語となり、その特性を述べる文へと意味構造が変化している。こうした例は非常に多い。

一方、「傾向」の意味を表す場合、難易文の述部に現れる動詞が意志的な動詞であれば、「Bグループの被験者は安くて経済的なソファを選択しやすい」が示すように、主体の行動パターンの傾向は主体の特性を表しているので、主体の特性が要因であると思われる。

以上に述べたことを簡単にまとめると、以下ようになる。

- 1) 「やすい」「にくい」と結合する動詞は、自動詞の場合でも、他動詞の場合でも、「難易」と「傾向」の両方の意味を表せる。
- 2) ただし、他動詞の場合、難易文は基本的に「難易」の意味を表し、「傾向」の意味を表す用例は少ない。自動詞の場合、「難易」の意味を表す用例は少なく、「傾向」の意味を表す用例が圧倒的に多い。それは、他動詞は意志動詞であるものが、自動詞は無意志動詞であるものが多いということの反映である。
- 3) 難易文を条件づける要因はほとんどの場合、内的な条件と外的な条件とに分けることができる。難易文の述部に現れる動詞によってさしだされるのが<動作>であれば、動作の主体（基本的には人間）の内的・外的な条件が要因として働く。一方、<変化>であれば、変化の主

² ただし、「データの書き込み中に他の作業をするとエラーが起こりやすい。」のような抽象的な事柄が主語となる場合、条件節によってさしだされる要因は、出来事の内的な条件あるいは外的な条件とは考えにくいので、主語が出来事である場合は別に論じる必要がある。

体（人・物）の内的・外的な条件が要因となる。

- 4) 「難易」の意味を表す他動詞の難易文には、動作の対象が主語となり、動作の主体が消去されることで、動作の主体による実行に関する難易を述べる文から主語の特性を述べる文へと意味構造を変化させている文があり、他動詞の難易文の用例の多くを占めている。
- 5) 意志動詞でも「傾向」を表す場合があり、無意志動詞でも「難易」を表す場合がある。どのような条件でそうした現象が生じるかについて明らかにする必要がある。

なお、本稿では、先行研究に従って難易文の意味を「難易」と「傾向」とに分けているが、それぞれの中にどのようなタイプがあるのか、両者の間にはどのような繋がりがあるか、などの問題についてはまったく触れていない。これらの課題は、自・他動詞に限定せず、文脈の影響なども考慮に入れてより広い範囲で検討しなければならないが、本稿では、要因の記述を主な目的としているので、これらの問題については、必要に応じて簡単に触れておくだけにする。

4. 他動詞の難易文における難易を条件づける要因について

4.1 「難易」を表す場合

他動詞の難易文の場合、ある動作・行為の実現が容易なのか困難なのかという、その動作の難易を条件づける要因は、内的な要因（動作主体の内的な状態や特性）と外的な要因（対象の状態や特性、外的状況）とがある。まず、前者の場合からみていく。

4.1.1 内的な要因の場合

動作主体の何らかの内的な状態や特性が要因となる場合、難易文は/何らかの状態や特性が動作主体に存在しているために、ある動作の遂行が容易・困難である/という意味を表す。この内的な要因になるのは、動作主体の社会的な属性や経歴、心理・生理的な状態などである。恒常的なものや長期的なものもあれば、偶発的で一時的なものもある。これらの要因は、コンテキストに依存したり、主語を修飾する規定語として現れたりする。また、原因・条件節、中止形などで示される場合もある。個別主体の場合も一般主体の場合もあるが、明示されるのが基本であり、省略されている場合も、文脈から復元することが可能である。

まず、ある特性をもつ人はもたない人より、動作の実現への妨げが少ないので、ある動作・活動の実現が容易であるということを表す用例から見てみよう。この場合の特性とは、動作主体の職業・身分（例13～15）、年齢（例16）、特定の人との関係（例17）、経歴（例18）などである。こうした主体の恒常的な特性を要因とする例では、動作の難易自体も特性としてとらえられることが多い。

- (13) 「テッドとスーザンはどこにいたんだ?」「知らない。コカインが出てきたら、あの二人、

どこかへ消えちゃったから。スーザンがドラッグ嫌いなのよ。ほんとは看護婦ってドラッグにはまりやすいんじゃないかと思うけど。仕事柄、手に入れやすいしね。でも、スーザンは別」(秘密パーティの客)

- (14) 天皇以外の人間は立身出世を考えざるをえないから、程度の差こそあれ、どうしても処世を無視するわけにはいかない。そこへいくと天皇はその必要がないために、物事に即した判断がしやすい。(徳川慶喜)
- (15) 捜査係の田辺と少年係の戸井を組ませたのは、刑事担当次長の大寺警視の指示だったようだ。少年係の方が、中学生から話を聞き易いということもあったが、少年同士の暴力事件を考えたからでもあるだろう、一方、田辺は、工業高校の出身者で、刑事課の中では、機械に強いとされていた。(さて、これから)
- (16) まず、老後の生活を支えるものにどのようなものがあるのかを確認していきましょう。そして、不足しているものはこれから少しずつ準備していけばいいでしょう。老後までの時間が長い人のほうが準備しやすいといえますが、時間の少ない人のほうが切実感がある分、現実的な対策を立てやすいかもしれません。(自分の年金計画をいま見直さない)
- (17) 「それはひどい。で、おれたちはどうします?」「追跡調査はおれがやる。あの子はおれを知ってるし、もし何か言いたいことがあるなら、おれはほかの誰よりも聞き出しやすい。(後略)」(愛は時空を越えて)

以上は非過去形の例であるが、過去形の例もある。過去形であっても過去の一回的な動作を表しているわけではなく、その当時の状況を説明しており、非過去形の例と本質的には異なる。

- (18) ディーゼルの仕事は、二～三ヶ月は訓練しましたが、あとは予備員としてついて覚えたんです。養成所出身のひとは、一応そこで基礎をやったから覚えやすかったけれど、それでも、タービン船のベテランで、ディーゼル船は苦手というひともいました。(ハッピー・ニッポンの終り)
- (19) 犯罪に基因すると認められる資料を発見できないまま、平松武郎の死は、いちおう自殺ということにされたのである。毒物の入手経路についても、死者の勤め先が薬品会社であり、比較的入手しやすかった。(殺人のカルテ)

また、次のような主体の生理的・身体的な特性が要因となる例もある。この場合、多くの人にとって普通にできる動作・活動が病気や怪我、体調不良、老化などのため、不可能ではないが、その実行により多くの労力が必要であったり、動作・活動を行うときに生理的な苦痛を伴ったりすることを表す例が多い。体調を崩したり、ある部位に異常が生じたりして、動作に困難を感じることは日

常よくあることだが、体調がよかったり、体がよく動いたりするために、動作が容易であると感じることは比較的少ない。したがって、この種の文では、「しにくい」が述語とする用例はほとんどである。次の例は、病気、手術、老化が一般的にもたらす動作の困難をとらえている。

- (20) いびきは子供の成長をさまたげる かならず何らかの原因があるからこそいびきをかくのだと申しあげましたが、たとえば、咽頭の構造的な病気が原因でいびきをかいているような場合、当然、食生活にもさまざまな影響が現れてくることになります。咽頭が狭いために、食べ物が飲み込みにくく、食が細くなる。よって発育に必要な十分な栄養がとれない等々、身体にいろいろな障害が起きてくるのは一目瞭然です。(「死」をまねく睡眠時無呼吸症候群)
- (21) 4期では、舌の大半もしくはすべてを摘出し、頸部郭清術も行います。この手術によって舌の大半または全部を失うと、うまく発音できない、食べ物を食べにくい、味覚が変化するなどの障害が起こります。(ガン全種類別・最新治療法)
- (22) 一般に高齢になると、視力が低下して遠くが見にくくなり、近くは老眼でボケる。(隠居のススメ)

次の例は、個別主体がある状態にあり、そのことが要因となってその主体が経験的に感じる動作の困難を表している。

- (23) 医学的にさらに興味深かったのは、ホルエムケニシ³の胸部の脊椎が「垂れた蠟」の形をしていることから、強直症の一種である拡散特発性骨化過剰症 (DISH) にはかかっていた。DISHは若者には稀な病気で、今日では六十歳以上の人口の5%しかかかかっていない。しばしば肥満をとまなうDISHには目立った症状はないため、ホルエムケニシの場合も、わずかに体が曲げにくいという程度しか感じていなかったであろう。(ミイラ解体)
- (24) 上唇の形が転んでゆがんでしまい、かみ合わない。飲み込みにくいから喉の緊張を和らげる薬を下さい、と家で書いてきたメモを渡す。(1リットルの涙 難病と闘い続ける少女亜也の日記)

人間は社会に存在していれば、自分の思うままに自由に行動することは不可能である。人は常に社会的な規範や場の雰囲気や周りの人の反応や目線などに配慮しながら行動している。動作主体にはその動作・行動を行う能力があるにも関わらず、自分が置かれる状況によって、動作を行うことに対して心理的な抵抗を覚えたりするときがある。以下に示す例は、そうした心理的な抵抗の有無

³ 「ホルエムケニシ」とは、古代エジプトの神官でもあった職人長のことである。

を難易文で表したものである。これらの例からも分かるように、主体の心理的な抵抗感を引き起こす原因となる出来事は、必ず文脈の中に表現されている。心理的な抵抗がある場合は「しにくい」を使い、心理的な抵抗がない場合は「しやすい」を用いる。

- (25) 現場の行員としては支店長など支店幹部への遠慮もあって、面倒な資料請求は行ないにくいものです。(銀行と上手につきあう法—これからの取引・見直しはこうする—)
- (26) 編集の人が書いてくれたプロフィールでは、私の職業は作家となっているが、どうも、口に出しては言いにくい。昔からうさん臭い商売とされてきたし、社会になくってはならない仕事でもない。だから、言いにくいのかという理由はそれだけでもない。(往きがけの空)
- (27) 泣き腫らしたお峰の目を見ては、おいそれと言葉もかけにくかったのだろう。木村は直によい医師を知らないか、と言ってきたのである。(姿見ずの橋)
- (28) 松田社長とは、昨日初めて会い、そのうえ厚かましいお願いまでしている。それなのに、今日また「助けてください」とは、いかな私もいいにくい。(炎の声土の声)
- (29) その前に個人的に必要な携帯電話を買う事にした。人の家で勝手にそうそう電話も使いにくいと考えたからだ。(私にも出来たいくつかの事)
- (30) しかし恒子を前にして、木村の夫婦生活に立ち入るようなことは言いにくい。(ささやかな不仕合わせ)
- (31) 四日前の夜の十時すぎ、思いきってかけた電話のむこうで、加賀美は相手が佐代子だと知っても、べつだんいぶかるふうもなく、驚きもせずに淡々と対応した。これまで佐代子がじかに彼に電話をしたことは、ほとんどなかったにもかかわらず、である。おかげで佐代子も切りだしやすかった。(やさしい関係)
- (32) 私はこの言葉を忠実に守っているつもりであった。しかし、社長にはすべてお見通しのようであった。社長から、何か用事が?といわれると、私としては切り出しやすかった。(炎の声土の声)

なお、これらの例においては、心理的な側面が動作・活動の難易の直接の要因となっているとしても、その心理は、何かの出来事やそのときの状況によってもたらされたものであり、それら(外的な要因)を含めて記述すべきかもしれない。

4.1.2 外的な要因の場合

ある動作・活動を遂行する能力が主体にそなわっていたとしても、その遂行を妨げるような状況が存在していたならば、主体にとってその動作・活動の遂行は困難になる。逆に、その遂行を促したり、その助けとなったりする状況が存在していたならば、主体にとってその動作・活動の遂行は

容易である。ここでは、こうした状況=外的な要因が難易を条件づけている場合を取り上げる。そうした要因には、その動作が実行される時間や場所、動作の手順や方法など、様々なものがあり、それらは文脈の中に示されたり、時間・場所を表す状況語や原因・条件を表すつきそい文などによって表現されたりする。

次に挙げるのは、自然や社会の環境（例33～35）や、他人からの支持あるいは阻害（例36）、主体が置かれている具体的な状況における物理的な条件（例37、38）、特別な時間・場所（例39～42）などが要因となっている例である。

- (33) バラグアイでは真面目な日本人への高い評価があるので、彼も土地を借りやすかったのだろう。(世界はワシらを待っている)
- (34) 風が強い日の砂漠では、食事がとりにくいことがよく分かった。(樓蘭古城にたたずんで)
- (35) もうひとつの課題は、すべての日系企業がアジア、特に中国に向かうため、中国側がより条件のよいところを見極め、条件を厳しくしやすいということだ。(中国・アジアビジネス WTO後の企業戦略)
- (36) 何から答えたらよいか。しばらくためらった上で、両宮太后に現在の情勢を知ってもらい、この調停のむずかしさを理解していただいた方が今後の仕事を進めやすいと考えた。(西太后)
- (37) その日は朝から晴れ渡った。湿気もそれほど強くなく、暑いわりにしのぎやすい。(小説現代 2001年9月号 (第39巻第12号))
- (38) 指先を接着材で固めてあるので回しにくい。(ブルータスの心臓)
- (39) 冬の夜は早い。夜は尾行の車をまきやすい。屋根の看板のランプを消せば、相手はこっちの車のテールランプだけを眼で追うことになる。(犯行)
- (40) 夜は暗いのでなおさら見つけにくいでしょう。(動物の見つけ方、教えます！)
- (41) 動物園には撮りたい動物がたくさんいますが、オリや柵があつて案外写しにくいものです。(女性のためのオートカメラ自由自在)
- (42) ブリーラムはわりと大きな町なので、中心部や宿が探しにくく、ジュースを買いに立ち寄った店のお姉さんに聞いてみることにした。(自転車旅行にでかける本)

次に、準備や手順に関する要因が動作・活動の難易の条件となる例（例43～47）、道具に関する要因が動作・活動の難易の条件となる例（例48～50）を挙げる。

- (43) 一度全体の工程を通して読んで頭に入れてから作業すると、ミスが防ぎやすいだろう。(はじめてつくるプリアンプ)

- (44) 肅 この字の筆順は迷う人が多い。中心の縦画を四番目とし、この字の中心を確定してから下部の処理をすると、字形をまとめやすい。(書道記法講座)
- (45) 従来考えられているような日本歴史の枠組みをもうすこし柔軟にしていかなければ、なかなか南島の持ち味はつかみにくいと思うんです。(沖縄・奄美と日本)
- (46) 道光年間、政府はふたたびアヘンの禁令を厳重にしたが、中国人民を取り締るだけでは実効をあげにくいことを悟り、広東に渡来する外国人にも禁令を及ぼそうとした。(アジア史概説)
- (47) 人物写真の項でも述べましたが、人物ポートレートはあまり人物に近づき過ぎても、また遠くはなれ過ぎて撮りにくいものです。(中高年のための写真道楽)
- (48) コロニーの観察は肉眼で行われる。拡大鏡、弱拡大顕微鏡を使って観察する方法が勧められる。斜光照明を併用すると観察しやすい。(微生物学・臨床微生物学)
- (49) 「顔の印象を決めるのは、パーツとフェイスラインのバランスによるところが大きい。ヒアルロン酸やボトックスなどを使えばフェイスラインは変えやすい」と高梨先生。(Hanako 2004年5月26日号 (No.787、第17巻20号))
- (50) マンホールは専用工具がないと開けにくいです。(Yahoo!知恵袋)

上に挙げた例にも言えることであるが、外的な要因に条件づけられている例には、主体が不特定であるものが多い。その傾向が進むと、次のように、「～は」の形をとって主題化されるようになる。これらは、ある状況（時間・場所・方法など）がある動作を遂行するのに適している、有利であるという意味を表している。主題化は動作の対象においてより頻繁に起こるが、これについては、後述する。

- (51) 八月という月は気ままな旅行がしにくい。乗りものも宿も混雑している。(旅は自由席)
- (52) 中庭のある住居は、窓から中庭を眺めても、また、中庭に出ても、見知らぬ人に姿を見られることはなく、プライバシーを守りやすい。(この建築物が「凄い！」といわれる理由)
- (53) こんな土地は全地球を見渡してもここしかない。大人口を養う農耕に適した土地があり、しかも外敵の侵入を防ぎやすい。(荒巻義雄の逆説から読む世界史)
- (54) 斜め置きは、場所の占有面積が減るし、取りだしやすいからだという。(コンパクトカメラの大冒険)

次に、難易を条件づける外的な要因が対象の性質・状態として現れている例を取り上げる。なお、「この本は読みやすい」のようなタイプは次の節で扱う。そうしたタイプの難易文はもはや動作主体がなく、構造的に他動詞文から形容詞文に変化しているからである。

- (55) おばあさんはゆっくり近よると、あがり口に腰をおろした。ほくと光ちゃんは、身動きひとつできない。「お店の人は、だれかいるかい」つぶれた声で、聞きとりにくい。(妖怪ばあさんのおくりもの)
- (56) 私は、そのビールを取り出し、栓を抜き、火葬を始める前にまず仏に供え、残りは生ぬるくて飲みにくかったが、坊野君と二人で、妻子との別れのつもりで飲みました。(日本の原爆記録)
- (57) 予約をしていた「平日のお造り」は、金谷城の一番人気メニュー。やわらかすぎずかたすぎず、食べやすかったです。(Yahoo!ブログ)
- (58) 「う、そん…まあ、その、こういうことになって」父はいまだに東北訛りが抜けない上に、生来の訥弁なので、言葉が聞き取りにくかった。(乳房)

以上の例は、特定の時空間の中で特定の人物が経験した難易を表している。それに対して、次の例は、時空間の限定がない。こうした例は少ない。

- (59) そのうえ、あるじの劉璋は父ほどの野心はなく、家臣たちが操縦しやすいという理由でえらんだ人物である。(エッセイで綴る中国の歴史)

4.1.3 対象の性質

他動詞の可能文には、「この水は飲める」のように、動作の主体が消去され、対象が主語の位置に現れ、その特性を表すように構造変化を起こしているものがある。「この水は飲みやすい/飲みにくい」のように、これに対応するものが難易文にもある。動作の過程との関係において対象の特性が取り出され、それを中心に述べるようになったものである。動作の過程が関与しているという特殊性はあるが、実質的には形容詞文に移行している。他動詞の難易文にはこうしたものが数多く見られる。

- (60) 柴犬は古来より、日本の風土にはぐくまれてきた小型犬ですから飼いやすく、比較的頑健で粗食に耐え、自然的な条件下で飼育できます。(柴犬の飼い方)
- (61) スズは青みがかったので、軟らかく加工しやすいが、強さはない。(金属なんでも小事典)
- (62) 砂糖：呈味成分はショ糖で、おだやかな甘味を持ち、水に溶けやすい。温度、pHなど調理条件の変化に対して安定で、調味料として使いやすい。(調理師読本)
- (63) 竹には年輪がないから何年生なのか判断しにくいのですが、表皮の色が艶のない青磁のような白っぽい緑になっていれば竹細工の材料になります。(作ろう・飛ばそう竹とんぼ)

- (64) 産業技術はそれぞれ特異なため、普遍的に教えるにくいかも知れないが、技術史を充実し、農学、工学、医学、薬学の一部は、カリキュラムに取り入れられるべきであろう。(「MI」変革する博物館第三世代)
- (65) 詩のようにリズム感のあるものは覚えやすいし、そのリズムを体得することも大切なことです。(だれでもできる学力づくり)
- (66) 中国や日本の紙は、大型のが造られますが、紙質がごく薄いから、大型に仕立てると、腰が弱くて使いにくい。(一古書肆の思い出)
- (67) 同様に薬の箱に印刷されている用法、効能、用量の字も小さすぎて読みにくい。(ヒット商品を生み、ベストセラー、ロングセラーにするための条件)

可能・不可能は二者択一であるが、難易は相対的な概念なので、程度性があり、以下に示すように、比較の対象が取り上げられることも少なくない。最後の例のように、他のものとはなく、同じものの違う状態と比較する場合もある。

- (68) 脳血管性ボケについては、ボケる前に予防や治療ができるという点で、アルツハイマー病よりはずっと扱いやすいといえます。(ボケにならない本)
- (69) だから、年齢も、若い人よりはある程度年のいった人、いわゆるおじさんというのがいちばん描きやすいですね。(無差別級)
- (70) 鹿児島黒豚は、(中略) ふつうの豚肉にくらべ、ほどよい歯ごたえがありながら噛み切りやすいのである。(これがホントの特上品だ！)
- (71) 蕎麦は茹でたてだと、ほどこやすく食べやすいんですが、しばらく経つと塊みたいになって、とても食べるにくくなります。(Yahoo!知恵袋)

こうしたタイプの難易文は、動作の対象が主語の位置に現れていて、動作の主体が主語として現れる余地がないが、誰がその動作・活動を行うかによって、難易の現れ方が異なってくることがあり、そうしたことを表現するための手段として、「～には、～にとって」などの形式が存在している。こうしたものも、広い意味での難易の要因に含めてよいだろう。

- (72) 携帯電話は軽量コンパクトが身上ですが、高齢者にとっては、画面やボタンの文字が小さくて読みにくい、ボタンが小さくて操作しにくいといった弊害があります。(モバイルがわかる本)
- (73) フライパンの場合はテフロン加工のものの方が焦げつかず、初心者には使いやすい。(ヒロカネ食堂)

- (74) 最近モロッコからのタコの輸入が制限されたためか、スーパーでは北海道産が目立ち始めました。硬くて、菌の悪い私には食べにくい。(Yahoo!知恵袋)
- (75) カンボの機材は十年以上たったものばかりでとても古かったけど、アーサーには使いやすかった。彼はカンボで何回も仕事をしたことがあったからだ。(ニューヨークの半熟卵)

動作の対象が主語となるこれらの難易文では、主語の位置には、生産物および道具（物品、資材、衣料、食料、道具、機械、ペットなど）を表す名詞がよく現れる。これらは人間の日々の生活や生産活動と関わりが深く、「使いやすいかどうか」「食べやすいかどうか」といったことが関心の対象になりやすいからだろう。「太郎は話しやすい」「花子は相談しやすい」のように、人間が主語となる例もないわけではないが、少ない。

4.2 「傾向」を表す場合

「やすい」「にくい」と結合する動詞が「忘れる」「紛失する」「骨折を起こす」「熱を出す」などのような無意志動詞であれば、「傾向」の意味を表す。「傾向」の意味の場合も、傾向を条件づける要因といったものを考えることができる。用例を見る限り、内的な要因がほとんどである。

- (76) 「コンサートでサインをしてもらったCDは宝物。傷つけたくないので、結局、お気に入りの曲だけダウンロードしている。ダウンロードはデータが消えてしまうこともあるし、買ったことを忘れやすい。どちらも共存していつてくれるのがベスト！」(兵庫、28歳女性)。(大文化1 夕刊 2021年11月11日)
- (77) 調査カードを作る場合には、一、持ちやすく、記入しやすい大きさにすること。あまり大きいと調査の時に持ち運びに邪魔になるし、あまり小さいと使いづらいうえに紛失しやすい。(日本石仏事典)
- (78) 磯田部長は「このうち九十品目は図書関係。小さいので紛失しやすい」と釈明した。(1社朝刊 1996年12月8日)
- (79) 加齢によって骨量の低下が生じるが、特に、閉経後の女性に骨量低下が著しい。多くは腰背部の慢性疼痛が主症状である。わずかな外力でも骨折を起こしやすい。(介護福祉士養成講座)
- (80) 小児は、のどの扁桃周囲のリンパ組織が大きく、白血球の数も成人より多い。それで、白血球が産生する発熱物質が多量に放出されるので、小児は高い熱を出しやすいと考えられる。だから高熱は、子供の特性なのである。(へボ医だから言えること)

次のような例も、「傾向」の意味を表している。意志動詞が用いられてはいるが、典型的ではなく、

具体的な動作でもない。これらの例に共通するのは、人間の信念や価値観、内的状態と判断や行動のパターンとの間に相関関係があることを述べているということである。ある種の判断や行動の傾向を条件づける要因として、人間の信念や価値観、内的状態に注目しているといえる。用例はすべて「しやすい」であり、「しにくい」の用例は見当たらなかった。

- (81) 極端な例を挙げれば、二台のコンピューターにそれぞれ、NHKと民放局のどこかの名前をつけておきます。利用者がどちらのソースから出てきた情報を信じやすいかということを考えて、その心理を巧みに利用し、相手に一方の情報を信じ込ませて誘導することもできるでしょう。(養老孟司アタマとココロの正体)
- (82) 実験仮説としては、快適さを示す (a) の画面で選択を行う被験者は、高くても快適なソファ(あるいは安全な自動車)をより多く選択し、(b) の画面で選択を行う被験者は安くて経済的なソファ(あるいは安くて経済的な自動車)を選択しやすいというものであった。この実験結果は、仮説を支持したのである。(価格・プロモーション戦略)
- (83) また、大食や咀嚼だけして吐き出してしまうエピソードもよくあり、その際には自分でも食欲をコントロールできない感情におそわれて攻撃的になったり抑うつ的になったりします。一方、ストレスのはけ口を食物に求めやすかったり、甘いものが好きだったりして「失恋したからやけ食い！」というのは頻繁にあることですし、「夏までにあの水着を着たいからしばらくダイエットしよう」と決心したりするのも、当たり前聞く話です。(心理学あだ、こうだ)
- (84) このこともまた、実利的プラグマティズムに通じる。絶対的正義感を持たない人間は、自分の利益になることを支持しやすい。(知価革命)

5. おわりに

以上、他動詞の難易文について、難易を条件づける要因は何かという観点から考察してきた。同様の観点は、可能文の研究においても見られるが⁴、難易文の研究における「要因」の観点は、それに劣らず重要である。

ある動作・活動の遂行が困難であるというのは、その遂行にあたって、何らかの妨げがあるということである。また、ある動作・活動の遂行が容易であるというのは、その遂行にあたって、それを容易にする特別な事情が存在しているということである。そして、動作・活動の遂行を妨げるものが何であるか、それを容易にする特別な事情とは何であるかということは、情報伝達上、重要であろう。実際、多くの用例において、それらは、難易を条件づける「要因」として、言語的に明示

⁴ いわゆる能力可能、条件可能、規範可能など。

されている。本稿では、それを、動作の主体の内的な要因と外的な要因に分けて記述し、動作の対象が要因となるときは、それが主語の位置に現れ、その特性を表すような意味構造の文への移行が進んでいることを指摘した。

本稿では、他動詞の難易文を対象としたため、「傾向」を表す難易文については、用例が少なく、要因の分析が十分ではない。それについては、自動詞の難易文についての考察に譲りたい。

参考文献

- 井上次夫 (1997) 「容易性・傾向を表す「～やすい」の分析」『Studium』24 大阪外国語大学大学院生協議会
- 井上次夫 (1998) 「傾向を表す表現について——～がちだ・～ぎみだ・～やすい——」『——国文研究と教育——第二十一号』奈良教育大学国文学会
- 井上和子 (1976) 『変形文法と日本語 (上)』大修館書店
- 井上和子 (2005) 「日本語の難易文をめぐって」鎌田修ほか編『言語教育の新展開 牧野成一教授古稀記念論集』 pp.77-92, ひつじ書房
- 大江元貴 (2014) 『日本語と中国語の可能・難易表現に関する認知的・語用論的研究』博士学位論文 (筑波大学)
- 近藤裕子 (2005) 『「～やすい/にくい」の意味・用法について—話し手の評価と用法上の制約』国文学踏査 17, pp.206-216
- 近藤裕子 (2008) 「日本語教育における「～やすい/にくい」の扱いについて—用法の細分化と文脈提示」国文学踏査 20, pp.161-174
- 鈴木基伸 (2015) 「ヤスイ・ニクイの意味と成立要件」大手前大学論集16, pp.75-87
- 渡邊績央 (2007) 「日本語の難易文」『東京大学言語学論集』26, pp.185-228
- Inoue, Kazuko. (1978) “‘Tough’ sentences in Japanese,” Problems in Japanese syntax and semantics, ed. by Jone Hinds and Irwin Howard pp. 122-154
- Inoue, Kazuko. (2004) Japanese 'tough' Sentences Revisited, in Scientific approaches to language 3 (this volume) , Kanda University of International Studies pp. 75-111

